



北区の部屋だより

第91号

2017年2月



刊行物登録番号 27-2-098

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 29 年 2 月発行

北 区
こぼれ話
第 90 回

ぎもんじょ 江戸時代を語る上で重要な偽文書



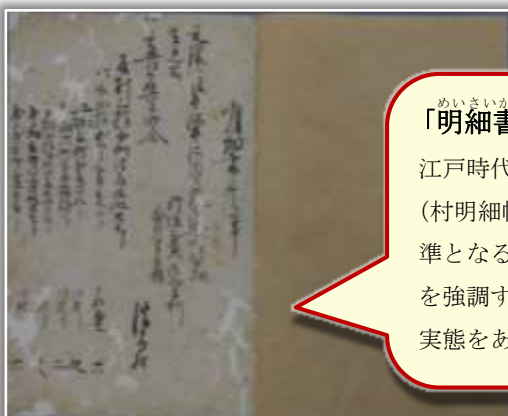
昨今「フェイクニュース」なる言葉が世間を騒がせています。日本語では、嘘のニュース、虚偽のニュースということになりますが、ソーシャルネットワークの発達によりその影響が甚大となり、無視できない社会問題になってきていることはご承知のことかと思ひます。一方で、偽の情報がいつの時代にも存在していたのも事実です。江戸時代でいえば偽の文書、偽文書ということになるでしょうか。今回は偽文書の話をして少し。

そもそも歴史研究の世界で偽文書が研究対象として^{そじょう}俎上にあがるようになったのは、ごく最近のことといひいいでしょう。偽の情報であることから研究の対象からは除外されてきましたが、近年では当時生きていた人々の意識をあらわす貴重な歴史資料と認識されています。偽文書が作られた動機やその背景を明らかにすることができれば、偽文書もまた立派な歴史資料なのです。

例えば、村の中で新たに力をつけてきた新興勢力^{しんこうせいりよく}の家が、旧来から村役人をやっていたような古い家に対抗するために実はうちはもっと古く、由緒正しい家^{けいふ}なんだということを主張するために偽文書を作成します。我が家はかつて有名な武将の家臣の系譜を引く家であつて…と偽の系図を作ってしまうこともよくありました。自らの家の優位性を語る上で必要不可欠な物的証拠が偽文書なのです（山本英二「近世の偽文書」（久野俊彦・時枝 務 編『偽文書学入門』柏書房））。逆にいえば、こうした偽文書を所蔵する家は、ある時期、家の由緒を主張しなければならなかったことを意味します。それが領主に対し正当性を主張するためなのか、村内での優位性を獲得するためなのか、それは場合によって様々だと思ひますが、自家の歴史性、正当性をアピールしなければならぬ事態に直面したことは事実だと思ひます。そして、その時にどういった内容を記せばより効果的に自らの正当性を主張できたのかといった視点から記述を分析することで、地域性や時代性、そして人々の価値意識を確認することもできるのです。

実はこれまで幾人も家にある古文書^{こもんじょ}を読んでと、明らかに後年に作成された偽文書を持って「北区の部屋」を訪れる方がいらっしやいました。書かれている内容の真偽が疑わしい旨をお伝えすると非常に残念に思われる方が多いのですが、それが事実か否かではなく、こうした偽文書が作成されていたこと、そしてそれが今日まで伝存してきたこと、そのこと自体が家の歴史を考える上で大変興味深いことなのです。

【地域資料専門員 保垣孝幸】



めいさいかきあげのこと 「明細書上之事」（浮間村 黒田家文書）

江戸時代に村の概要を領主に提出した帳簿（村明細帳）。領主による金銭徴収等の賦課基準となるため、なるべく貧しい村であることを強調する傾向にある。その意味では、村の実態をあらわしているかどうかは疑わしい。

◆◆◆今月の展示◆◆◆

北区昭和町の「おく」 —変わりゆく尾久駅周辺—

期間：平成 29 年 1 月 27 日（金）～2月22日（水）

場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

■上野東京ラインの開通で、都心や横浜方面への通勤通学が、飛躍的に便利になった尾久駅。以前、朝のラッシュ時に都心へ向かうには、1 駅だけ上野まで乗車し、通路やホームが大混雑する中、山手線や京浜東北線に乗り換える必要がありました。

■しかし、一昨年から、東京駅・新橋駅・品川駅、そして横浜駅にも乗り換えなしで行けるようになりました。今回は、そんな尾久駅周辺の移り変わりについて展示します。

◆◆◆「北区の部屋」のご案内◆◆◆



◀ このマークの意味、ご存知ですか！？

■北区の図書館には、背表紙に3枚の桜の花びらで北区の「K」を表した『北区コミュニケーション・マーク』のついた本が多数存在します。

■これは「その本には『北区』が登場していますよ」という目印で、その昔、赤羽図書館の職員が「北区を題材にしている本を探してみよう」とリスト化したのが始まりでした。

■以来、『「北区」が登場する本のリスト』を毎年更新するようになり、近年わかりやすくそれらの本にシールを貼るようになりました。

■もし、あなたが手に取った本にこのシールがついていたら、ちょっと思い出して、どこに「北区」が登場するか探してみてくださいね！

◆◆◆歴史講演会◆◆◆

板橋の火薬工場 ～東京第二陸軍造兵廠～

▶企画・運営：北区図書館活動区民の会



昭和初期の「板橋火薬製造所」

■かつて、板橋区と北区にまたがる陸軍の巨大火薬工場がありました。

■明治9年に開かれた官営工場である板橋火薬製造所（東京第二陸軍造兵廠）と、北区などの関連地域の歴史について、現存する建造物や遺構などの文化財の価値を含めて講演します。

＜詳細＞

日時：2月25日（土）午後2時～4時

場所：中央図書館3階ホール

講師：駒澤大学講師 吉田 政博 氏

定員：50名（抽選）※区内在住・在学・在勤の方優先。

＜申込方法＞

往復はがきの往信用面に講演名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号を、返信用面には申込む方の住所、氏名を記入して下記住所までお送りください。2月15日（水）必着です。

※視覚障害のある方は電話申込可。

※聴覚障害のある方はファクス申込可。

※手話通訳が必要な方は事前連絡が必要です。

〒114-0033 北区十条台1-2-5

北区立中央図書館 事業係

TEL：03-5993-1125

FAX：03-5993-1044



◆◆◆公開歴史講座◆◆◆

村の事件簿 —示談と和解の江戸時代—

■江戸時代の村でも、村人同士さまざまなトラブルや事件が起きました。

■そんな時の問題解決方法を、専門家がわかりやすく解説します。



＜詳細＞

日時：3月11日（土）午後2時～4時

場所：中央図書館3階ホール

講師：保田 孝幸 地域資料専門員

定員：50名（抽選）※区内在住・在学・在勤の方優先。

＜申込方法＞

申込方法・申込先は上記「歴史講演会」と同様ですが、締切は3月1日（水）必着です。ご注意ください。



北区の部屋だより

第92号

2017年3月



刊行物登録番号 27-2-098

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 平成 29 年 3 月発行



北区こぼれ話 第91回 終戦後の赤羽やみ市で売っていたもの ー おでん1杯2円也ー



赤羽駅東口のやみ市

上野駅が東京の北の玄関口なら、赤羽駅は北の勝手口といったところでしょうか。終戦後、経済警察の眼をかいめぐり、やみの食糧などが、埼玉方面から赤羽に運ばれてきました。列車が、警視庁管内の赤羽に入った瞬間に、警察官が現れ「御用」となったこともあったと言います。

そんな赤羽駅の東口には、様々な食品や物資を売る露店が並び「やみ市」が形成されました。多くの庶民が、配給品だけでは生活できず、やみ市で買い物をしました。当然、公定価格を大きく上回る値段で物が売られていましたが、食糧不足の中、背に腹は代えられなかったと言います。



赤羽駅東口京浜東北線
沿いのパチンコ店と屋台

北区の部屋所蔵「高木助一郎日記」の昭和21年1月6日（日曜日）の頁によれば、この日の午後2時、中十条に住む高木助一郎さんは、娘さんと一緒に赤羽に出かけ、やみ市の露店を見て回っています。赤羽駅前には、数十軒の露店がありました。食糧品や日用品を売る店、様々な飲食店などが軒を連ねていました。日曜の午後だけに「相当の人出」で、商品の値段はどれも高かったとあります。

戦前、王子町役場の課長だったこともあってか、助一郎さんは、何がいくらなのか細かく記録しています。それによれば、鰯^{いわし}6〜7尾（6寸くらい）が10円、いか一杯が6〜7円、海苔一帖は9円、干柿4個で10円です。そして、おでん1杯2円、お汁粉^{しるこ}1杯3円、雑煮^{そうじ}1杯5円とあります。

記録されている食品の中で最も安いものが、おでんでした。お汁粉や雑煮とは違って、おでんは、具材の選び方により、価格を抑えることも、逆に高くすることも容易です。終戦後のことですから、やみ市のおでんには、こんにゃくと大根くらいしか入っていなかったかもしれません。

当時、郵便はがきが1枚15銭でした。おでん1杯分の2円で、はがきを13枚買えて5銭お釣りが来ました。そう考えると、割高な気がしますが、他の食べ物の価格に比べれば、おでんは庶民の味方だったと言えるでしょう。

なお、助一郎さんは、中十条への帰途、下十条駅（現、東十条駅）北口階段下にあるやみ市も見に行きました。こちらには約20軒の露店が並んでいたそうです。何が売られていたかは記録されていませんが、価格は赤羽と同じように高かったと記されています。

【地域資料専門員 黒川徳男】



やみ米を運ぶ人で混雑する
赤羽駅のホーム

注：写真は全て昭和20年代 渡辺肇氏撮影

今月の展示

昭和37年頃の
王子映画館街

北区懐かしの映画館



期間：平成29年2月24日（金）～3月30日（木）
場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

かつて映画が「娯楽の王様」といわれていた時代、北区にも多くの映画館がありました。今回の展示では、戦前から昭和30年代を中心に、当時の人たちが通った懐かしの映画館を紹介します。



特別展示

親子で謎解き！

「中央図書館ナイトツアー」



さる1月15日（日）に、「親子で謎解き！ 中央図書館ナイトツアー」が開催されました。これは閉館後の中央図書館を巡って手がかりを見つけ、図書館の謎を解き明かすという小学生対象（保護者同伴）の人気イベントです。

今年は、架空の旅行会社：ポンコ・ツーリストが企画した夜の図書館見学ツアーという設定で、暗号文の手紙やガイドブックを用意してイベントを盛り上げました。

お陰さまで参加者の皆様からは大変ご好評で、子どもたちから感想もたくさんいただきましたので、今年のナイトツアーの概要とともにご紹介いたします。

期間：平成29年2月24日（金）～5月24日（水）
場所：「北区の部屋」カウンター側出入口外すぐ脇



「中央図書館ナイトツアー」は、北区図書館活動区民の会が企画・運営しており、毎年1月に開催しています。旅行会社のロゴを作成し、衣装を揃え、スタッフ一同添乗員になりきって図書館内外をガイドしました♪

DVD情報

「北区映像アーカイブによる 街おこしシリーズ」第4弾貸出開始



区民の皆様よりフィルムを提供していただきテレシネ化した、懐かしい北区の映像DVDシリーズ・第4弾です。1950～80年代の貴重な映像をぜひご覧ください。

vol.	上映分数	撮影時期	主な内容
5	52分7秒	1979～83年	東十条2丁目の祭り・王子神社・他
8	33分50秒	1968～74年	長女の豊川小学校入学・運動会・他
10	68分57秒	1969～78年	神谷小学校入学式・運動会・他
13	15分56秒	1973・81年	S48年頃赤羽西自宅付近・他
37	54分1秒	1956～72年	冬雪の王子・音無川温泉付近・他
65	45分3秒	1959・73年	荒川小学校の記録映像・運動会・他

—お詫びと訂正—

「北区の部屋だより」第91号（2月号）掲載の北区こぼれ話第90回「江戸時代を語る上で重要な偽文書」欄の人物名の読みに誤りがありました。お詫び申し上げますとともに、下記の通り訂正させていただきます。

<誤> 『^{くのとしひこ}久野俊彦』



<正> 『^{ひさのとしひこ}久野俊彦』

北区の部屋だより

第93号

2017年4月



刊行物登録番号 28-2-097

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 平成 29 年 4 月発行



北区こぼれ話 第92回 ここはどこ?! 古い写真の場所を探って



「北区の部屋」には、区民の方が撮影した、または所蔵している古い写真がよく持ち込まれます。撮影日時や場所について、お持ちいただいた方が覚えていらっしゃるれば特に問題ありませんが、例えばお祖父さんやお父さんが撮影したもので、もうどこかも解らないということも少なくありません。それでも写真に写っている様々な情報を手がかりに、その撮影場所を絞り込んでいきます。例えば、右の写真がどこか解りますか？これを見てすぐにピンと来る方もいらっしゃるでしょうが…。



まず、車に「東京祭」の文字が見えます。荷台には国会議事堂の形の装飾が施されています。^{ほどこ}よく見ると一方向に向かって車が行列していて、パレードでしょう。実は、この写真は1956年(昭和31)に開催された「大東京祭」の時に行われた北区工場協会連合会による花自動車パレードの様子を写したものです。新聞記事等で確認すると実施されたのは1956年10月11日。撮影日はこの日だと考えて良いでしょう。

では、この撮影場所はどこなのでしょう。平坦な直線道路です。トラックの対向車線を見ると二車線あるようで、それなりに広い道であることが解ります。当時の区内である程度の道幅がある場所に絞られるのですが、少なくとも本郷通り、^{ほんごう}北本通り、^{きたほん}そして国道17号(中山道)、^{なかせんどう}ではないことが明らかです。これらの道だとすると道路中央部分に都電の軌道が写っていなければなりません(当時、本郷通りには19系統、北本通りには27系統、国道17号には18系統の都電が走っていました)。私自身はこの段階で明治通りか環状七号線あたりに絞り込みました。道路の右側には大きな煙突が見えます。工場でしょう。この道は工場の脇を通っているのです。最初は、西巢鴨交差点あたりから明治通りを飛鳥山方面に向かっているのかと思いましたが道路の右側にそれらしき工場はありません。もう一度写真を見ると道の左側にはタテ長の大きな看板が見えます。字が潰れていて判読が困難なのですが「生」の字は何とか見えました。生命保険会社でしょうか。もしかして駅に近い場所か？

工場の脇を通る広い道、工場の向かいには生命保険会社、こうした情報を整理して住宅地図で確認してみます。1956年当時のものはないのですが「北区の部屋」にある最も古い住宅地図(1962年<昭和37>)と照合しつつ、ここでもない、あそこでもないと見ていきました。結果、この写真は王子駅前。明治通りを溝田橋交差点方面に向かっているものと確認できました。右側に見えた煙突は国立印刷局王子工場のもの、左側に見えていたのは「東邦生命」の看板だと解りました。^{とうほう}

結局のところ場所を特定できないという写真も少なくありませんが、こうして一つ一つ情報を整理して場所を特定できると嬉しいものがあります。みなさんもちよつとした探偵気分でご自身がお持ちの写真の場所を探してみませんか？調べる材料は「北区の部屋」に揃っていますよ。

【地域資料専門員 保垣孝幸】



今月の展示



昭和初期の「板橋火薬製造所」

▶北区図書館活動区民の会・地域資料部会 企画・運営

板橋の火薬工場

ぞうへいしょう

～東京第二陸軍造兵廠～

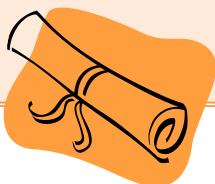


◆期 間：平成 29 年 4 月 1 日（土）～4 月 26 日（水）

◆場 所：「北区の部屋」企画展示コーナー

今回の展示は、さる 2 月 25 日（土）に行われた歴史講演会：「板橋の火薬工場 ～東京第二陸軍造兵廠～」の関連展示です。本パネル展示は、講師：吉田政博氏（駒澤大学講師）のお話を基に、北区図書館活動区民の会・地域資料部会が作成しました。

講座の案内



▶古文書入門講座

「初めての古文書」

北区の古文書を題材に、くずし字の調べ方など初歩の解読を演習形式で行います。

◆日 時：5 月 12 日（金）～6 月 16 日（金）
毎週金曜 計 6 回 午前 10 時～12 時

◆場 所：中央図書館 3 階ホール

◆講 師：日本近世史研究家 保垣 孝幸 氏

◆定 員：25 名（抽選／区内在住・在勤・在学、18 歳以上の方）

◆申 込：往復はがきの往信面に講演名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号を、返信面に申込む方の住所、氏名を記入し下記宛先まで。

◆申込先：〒114-0033 北区十条台 1-2-5

中央図書館 図書係

TEL (5993) 1125

◆※切日：4 月 28 日（金）必着



「北区の部屋」の案内



「北区の部屋」では、北区の逐次刊行物も積極的に収集しています。例えば「北区ニュース」、これは創刊号（昭和 35 年 2 月 25 日発行！）から保管しています。現在のもものと比べると、発行間隔や紙面サイズ、特集記事の内容等に違いがあつてなかなか興味深いものがあります。「北区の部屋」までちょっと昔の北区を見に来てみませんか？

講演会の案内



▶歴史講演会

こんどういさみ

たきの がわ

「近藤勇、瀧野川へ」

北区図書館活動区民の会・地域資料部会 企画・運営

新撰組隊長・近藤勇は今年 150 回忌を迎えます。板橋駅東口広場前の寿徳寺境外墓地に眠る近藤勇が、瀧野川へ至るまでの経緯、斬首されるまでの経過などについて幕末史研究家が語ります。

◆日 時：5 月 20 日（土）午後 2 時～4 時

◆場 所：中央図書館 3 階ホール

◆講 師：幕末史研究家 菊地 明 氏

◆定 員：50 名（抽選／区内在住・在勤の方優先）

◆申 込：往復はがきの往信面に講演名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号を、返信面に申込む方の住所、氏名を記入し下記宛先まで。

※視覚障害のある方は電話申込可。

※聴覚障害のある方はファクス申込可。

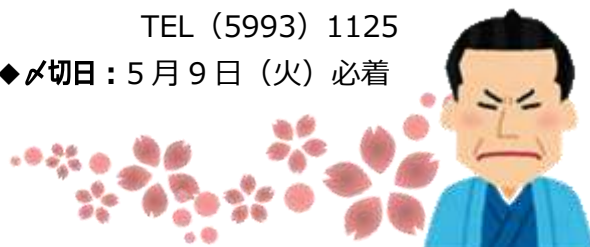
※手話通訳が必要な方は事前にご連絡ください。

◆申込先：〒114-0033 北区十条台 1-2-5

中央図書館 図書係

TEL (5993) 1125

◆※切日：5 月 9 日（火）必着





北区の部屋だより

第94号



2017年5月



刊行物登録番号 28-2-097

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 平成 29 年 5 月発行

北区こぼれ話 第93回

飛鳥山で運動会? うどん会?

—「浮雲」当世書生氣質の中の飛鳥山と運動会—
うきぐも とうせいしよせいかにたぎ



戦前から戦後にかけて、飛鳥山公園にはグラウンドがあり、しばしば小学校などの運動会が催されていました。図書館利用者の皆様からも、飛鳥山での運動会について、思い出話をお聞きすることがあります。

さて、この「運動会」という言葉ですが、明治初期には、現在とは全く異なる意味で使われていました。徒競走や玉入れなどをする競技会という意味ではなく、郊外などへの行楽を運動会と呼んでいたのです。『日本国語大辞典』第一版第十五刷（小学館、1989年）には、運動会について「大勢で遠出をして遊ぶ、遠足、またはピクニックをもさした」とあります。

実は、飛鳥山は、この意味での運動会の目的地として代表的な場所でした。

明治 20 年（1887）から 22 年にかけて書かれた二葉亭四迷『浮雲』の一節をお読みください。

「(前略) それからまた今度は、明後日お友達同志寄ッて飛鳥山でうどん会とかを……」

「オホ、い。」

此度は真に可笑しさにお勢が笑ひ出した。昇は荐りに點頭いて、

「運動会」

「そのうどんかいとか蕎麦買ひとかをするからもう五十銭呉れろってネ (中略)」

「慈母さん、書生の運動会なら、会費と云っても高が十銭か二十銭位なもんですよ。」

(日本近代文学大系 4『二葉亭四迷集』角川書店より。ふりがなは適宜加除しました。)



息子に小遣いをせがまれたことについて、母親が、娘（お勢）と、娘を慕う男性（昇）に、愚痴をこぼしている場面です。運動会は、聞きなれない言葉だったのでしょう。「うどん会」や「蕎麦買い」という、言い間違いが笑いを誘います。この場合の運動会は、遠足のようなものです。息子は学生で、友人と連れだって飛鳥山へ行くことを理由に、小遣いをねだったのです。

ほかにも、飛鳥山での運動会が出てくる、明治初期の小説があります。明治 18 年（1885）の坪内逍遙『当世書生氣質』です。その「第一回」が「鉄石の勉強心も変るならひの飛鳥山に物いふ花を見る書生の運動会」という題名です。偶然、ある学生が、幼なじみの女性と、飛鳥山で再会するというストーリーです。題名にある「物いふ花」の「物いふ」は人間であるという意味ですから、この言葉は、芸者さんを指します。女性は、芸者となって、お金持ちの客たちに連れられ、花見にきていたという設定です。

一方、主人公の学生は、友人たちと飛鳥山へ運動会に来ていました。この場合、運動会とは、花見の会のことです。

なお『当世書生氣質』には、滝野川や王子神社、料亭の扇屋さんも出てきますので、ご興味のある方はぜひご一読を。

【地域資料専門員 黒川徳男】



今月の展示

音無橋の履歴書

◆展示場所：北区の部屋

◆展示期間：4月28日（金）～5月24日（水）



音無橋が、石神井川に架けられたのは、昭和6年（1931）5月のことでした。それから86年の年月が経過しました。ある時は水害に見舞われ、またある時は桜に彩られ、上流の石堰が撤去され、下流に親水公園が整備され、お隣の舟車橋が撤去されたかと思うと再建され…。音無橋は、過去も現在も、石神井川を見守り、北区の交通を支えてきました。今回の展示では、そんな音無橋の歴史と、その付近の変化に焦点をあてます。



「北区の部屋」のご案内

「北区の部屋」の利用方法教えます♪



「北区の部屋」には“北区”に関する図書をはじめ、北区の懐かしい写真や古い地図、古文書など様々な資料がたくさん所蔵されています。

「そんな古い資料、歴史の専門家しか見に行かないよ～！」と思うかもしれませんが、全くそんなことはありません。皆さん様々な理由で資料を閲覧しに訪れます。

では、皆さんがどのように「北区の部屋」を利用しているか、2つ事例をご紹介します。

◆事例1：自分が通っていた小学校はどこ？

Aさんは第二次世界大戦末期の昭和20年、小学校へ入学早々、戦火を避けるため学童疎開しました。まだ小さかったため、焼失した小学校や疎開先がどこだったか思い出せずにいましたが、幸い近所の公園や最寄駅は覚えていたので、“当時の地図”から学校を特定し、“北区教育史”で小学校の疎開先も判明しました。また、戦後再建した小学校の“記念誌”で、同時期学童疎開された方の手記や焼失前の校舎の写真も見つけ、当時の記憶が色々と蘇ったようでした。



◆事例2：昔ここは何だったの？

小学生のBさんの家は、30年位前、まだお父さんが小さい頃におじいさんが建てました。学校の宿題で自分の家が建つ前は何だったのか調べに来了ました。平成元年前後の北区の“住宅地図”で家の辺りを調べたところ、以前も別の人の家が建っていたことがわかりました。ちなみにその前の人の家は20年以上前から立っていたこともわかりました。



北区の歴史を調べに来る方ももちろんいますが、単に昔の地図や写真が見てみたい方、年金手続きのため昔の勤務先の住所が知りたい方と利用方法は様々です。TV局や出版社が番組や雑誌に使用する写真を借りに来ることもあります。

また「北区の部屋」には地域資料専門員がおりますので、北区に関する質問には何でも対応させていただきます。どうぞお気軽にお尋ねください。

※ 地域資料専門員は在室していない日もありますので、在室確認は「北区の部屋」の「専門員の予定表」をご覧ください。

祝！ 北区制70周年

DVD「～北区制70周年～変わりゆくふるさと北区の風景」のご紹介

昭和22年3月15日に旧王子区と旧滝野川区が合併して北区が誕生し、平成29年3月に区制70周年を迎えました。それを記念し、北区総務課で作成した懐かしい北区の写真をまとめたDVD（写真協力「北区の部屋」）を図書館で貸出開始いたします。思い出の光景に出会えるかもしれません。是非ご覧ください。





北区の部屋だより

第95号

2017年6月



刊行物登録番号 28-2-097

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 平成 29 年 6 月発行



無量寺

北区こぼれ話 第94回 宗派の垣根を越えて ～江戸時代の寺社の開帳～



昌林寺

地域の寺社は、堂舎の修復費用を賄うため、様々な自助努力が求められていました。その手段の一つが開帳です。開帳とは、普段は見せていない秘仏や宝物を一定期間公開し広く拝観させることで、そこで集めた浄財^{じょうざい}を修復費の一部に充てることを意図して江戸時代には盛んに行われていました。しかし、当時の開帳は寺社奉行へ出願し許可を得て実施する免許制で、しかも、同一寺社は一度開帳を行ったら 33 年の間を空けなければならないなど細かな規定がありました。それでも、様々な理由をつけて「年限未滿」での開帳が行われたほか、次第に見世物小屋や茶店が立ち並び、信仰というより興行的な色彩が強くなっていったといえます（比留間尚^{ひる まひさし}『江戸の開帳』）。

北区の寺社でも開帳が行われており、安永3年（1774）3月、武州豊島郡西ヶ原村の無量寺が開帳を出願し許可されました（国会図書館所蔵『開帳免許帳』）。出願理由は堂舎の修復助成です。ここで同寺にある恵心僧都作といわれる「雷除け」の靈験がある正観音像、そして西国三十三所観音紀伊国粉河寺の遷しを来る7月朔日より60日間公開するというものです。ご存知の方も多いかと思いますが無量寺は江戸時代に流行した「六阿弥陀詣で」第三番の札所にあたります。行基作との伝承を持つ座長3尺ほどの阿弥陀像を安置するほか、寺宝とされるものをいくつも所持しています。これらの中から今回は正観音像と西国三十三所観音の遷しが選ばれたのでしょう。

さて、これだけなら単なる開帳の話なのですが、面白いことにこの無量寺と全く同じ日程で西ヶ原村の昌林寺も開帳を申請し許可を得ているのです。昌林寺では、本尊である六阿弥陀末木の観音と秩父三十四所観音の遷しを公開しました。無量寺は新義真言宗そして昌林寺は曹洞宗の寺院で宗派は異なりますが、両寺の間はおおよそ100m、まさに目と鼻の先の距離です。これは偶然なのでしょうか。いや、同一期間で近隣寺院同士が開帳を行えば、より多くの参詣客を呼び込めるとの判断から両寺相談の上で日程を合わせ出願したものと思われます。事実、昌林寺の出願も無量寺と同じ3月で、幕府の『開帳免許帳』には無量寺・昌林寺が並んで記されています。普段は見ることのできない秘仏が二つの寺院で同時に公開されているのです。それならば、ちょっくら行ってみる

か…。多くの人々の興味関心を引いたことは想像に難くありません。

江戸時代でも、一つの村の中にいくつもの宗派の寺院があります。こうした寺院同士の横のつながりはどうだったのでしょうか。あまり研究が進んでいる分野ではありませんが、宗派を超えた寺院のつながりをうかがわせる開帳のお話でした。【地域資料専門員 保垣孝幸】



*** 今月の歴史講演会・特別展示 ***

▶ 北区図書館活動区民の会・地域資料部会企画・運営

「近藤勇、瀧野川へ」

◆ 期 間：5月26日(金)～6月21日(水)

◆ 場 所：「北区の部屋」企画展示コーナー

今回の展示は、さる5月20日(土)に行われた歴史講演会：「近藤勇、瀧野川へ」の関連展示です。本パネル展示は、講師：菊地明氏（幕末史研究家）のお話を基に、北区図書館活動区民の会・地域資料部会が作成しました。



■ 今年は近藤勇の150回忌ということもあり、今回の歴史講演会「近藤勇、瀧野川へ」は、滝野川に墓のある近藤勇及び新選組がどれくらい北区に繋がりがあるのかを知りたいと企画されました。

■ 今回の講演ではタイトルにもある通り、主に近藤勇の生涯にスポットを当て、誕生から滝野川で処刑されるまでを語って頂きました。天然理心流の門人たちと「浪士組」に参加、京都へ上り前身である「壬生浪士組」を結成、「新選組」に改名、池田屋事件で名を上げ、旧幕府軍側について戊辰戦争参加、新政府軍に鳥羽・伏見の戦いで敗北、最後は政府軍に捕われて滝野川で処刑と、菊地講師は用意した文献を引用しながら臨場感たっぷりにお話してくださいました。

■ 近藤勇と北区の関連性は、滝野川で処刑されたことと、胴体が埋葬された墓が残されていることしか繋がりはないとのこと。北区との関わりが少ないのは残念でしたが、2時間足らずの講演ではもったいないくらい濃く深い内容でした。

■ 講演後には熱心な受講者から質問が多数あり、講演会終了後も菊地講師に話しかける人が後を絶ちませんでした。またアンケートの感想も概ね好評で、『数回に分けてもっと詳しく聞きたかった』という意見を多くいただきました。



講師・菊地明氏

講師の菊地氏は幕末史研究家として、幕末・新選組関連の本を多く出版されております。図書館にも揃えてありますので、ぜひ手に取ってみてください♪

今年4月発行の
「幕末証言『史談会速記録』
を読む」入荷しました！



*** 古文書入門講座始まりました！ ***



講師：保垣孝幸氏

■ 5月12日(金)より、古文書入門講座「初めての古文書」が始まりました。これは江戸時代の古文書を読んでみようという全6回の講座で、講師は「北区の部屋」地域資料専門員の保垣孝幸氏です。初回では「古文書」の概要から始まり、くずし字の解読や辞書の使い方を学びました。

■ くずし字を読むには、①文字の“へん”や“つくり”の似たものを辞書の部首索引で探し、②その部首の項目から古文書と似た文字を探していく…を一字一字繰り返していくそうで、なかなか根気のいる作業です。保垣講師は、「へんやつくりがわからなければ、辞書を始めから最後まで一字ずつ確認していけば良い！」と、極論を述べて受講者を笑わせていましたが、実際にそうやって読み解いた古文書がいくつもあると話していました。

■ また、よく使われる文字ほどくずれており、頻繁に使われる言い回しや表現に慣れると、知らない文字でも読みの想像がつくようになるそうです。多用されるくずし字は、そのまま覚えてしまうのも1つの方法とのことでした。

■ 2回目からは、実際に古文書を使用して受講者自身が自分で調べ、全員で答え合わせし、最後は全員で音読しました。北区に実在した人たちが書き記した古文書は、当時の生活に密着する内容が多く、保垣講師が時代背景や江戸庶民の暮らしぶりなども交えつつ解説しますので、地域の歴史も一緒に学べて古文書が身近に感じられたのではないのでしょうか。



*** 昭和町図書館リニューアル・オープン！！ ***



昭和町区民センター外観

■ 5月16日(火)、昭和町区民センター改装により休館していた昭和町図書館がリニューアル・オープンしました！

■ 昭和町図書館は鉄道施設の近くにあるため、以前から鉄道関係の資料収集に力を入れていましたが、今回のリニューアルで都電・鉄道コーナーのスペースを広くし、展示物や関連書籍などをさらに充実させました。

■ 「北区の部屋」からも写真を数点提供しています。鉄道に興味のある方は一度見に来てくださいネ！！



平成22年に尾久車両センターに展示されたD51